



子名日記
二

興

興

興

遠 13
1.664
2



1664
2

千尋日本織卷第二目録

見出

好文堂



一 関江手飛云お遠主人

目野の義経の志中
久六雄儀の志者三人

二 落て尚し瓦乃白

物面白後の事感の受物
畏て赤夷人の事云

三 比々糸乃なれ拍子

仕る糸乃の糸引
うら糸乃の糸引

四 糸乃小不乃神時魚

かまふ糸乃の糸引
糸乃の糸引

△山津



日本織

又好も酒跡地起り

好も酒跡地起り
持てて名乗れ乃以て

六板乃八百屋本所風

板乃八百屋本所風
惜ハ未嘗紅地立格

七食料屋後式歩の荷袋

食料屋後式歩の荷袋
堪敷頼を為てり

八兄弟借利の箱拍子

兄弟借利の箱拍子
廻り回果の箱籠のけり

子孫日本御意之二

一冥所より飛に相造る人

冥所より飛に相造る人
此の事則二面目并同をこし其根を代りては玉筒系
流りせれくよ後目極を傍系三人の旁拂ふ袖の巻
川やを此極よなりん也をこしは他の布掛拍子
りてハハハとぬと高きうにそのけりて居つては不
こうけりやこれ物よはいとも系なりはくよ目録うん
者中れをし初うくとるんと幸味の巻けりよ
と極の人んをふゆやを思くと人其中心所に極を
あ風呂を以てハハハとけりて打物系根の巻けりよ
ぬけりたけりよのたをな掃て火縄の火はくこれ巻茶



あしくせんぶれ内も人ぞはき新おれさしり縄に
多一く戒協物をさうかの候しそりあな
そのまじりにまげつけしとちの繩をさうあつひ
の書わりの公案とぞなんとまじりしとぞえんれ
わのくしめ候りいまざはるる七八つらなむ
いふ系に三人りしうたぞまじりしつみ果て月
相ハ瓶よぞうまれやげんしと、新内よはまもふ叶
まれしとちはまては入るる人々候し物ほま
考ふまれのわざはぬのしものまじりしと一人を
念ふまじりしとちをまじりしとまじりしと
念ふまじりしとちをまじりしとまじりしと
念ふまじりしとちをまじりしとまじりしと

念ふまじりしとちをまじりしとまじりしと
念ふまじりしとちをまじりしとまじりしと
念ふまじりしとちをまじりしとまじりしと
念ふまじりしとちをまじりしとまじりしと
念ふまじりしとちをまじりしとまじりしと
念ふまじりしとちをまじりしとまじりしと
念ふまじりしとちをまじりしとまじりしと
念ふまじりしとちをまじりしとまじりしと



多不げれどふと此れに合さるといふなりとありしに
我と云ふにこれバ先づあつたはりし白髪に申候
とて髪をそはれ給ひてくまもつても髪なかりに
人らもあはれむとてまきつるにづかハもくや成
借而人又
の之ハ守あせ少半ひらき初てつたうも程う
刀にさしおてはあひくはれあはれは申中
人らもくも是りてお定にあつた
てむんちまかのあれれとけいふ事の上
程う小甲髪をひくとしこれ髪を
まきつるにわづらひて井治を
のふとておてかへる事な
四

親と一而よけ刀にわかれ申合と
切合し勇の老い人なとけく切
ハ病人なり申すもそれバ佳
とづらうとたの肩をた
刀は杖つと踏をゆりやれ
根よんをせしは後よハ
意儀の略ひも程母をく
ふられハ御意に大共二人
かを後れ此程をそはせし
少せおるま人の途のひら
とて先をささへせあせ押
日本書

作磐へニムシ入道と書らるし中一第の女也
つり切て扱く禁止る方何年以月つ

④ 第百五十四の神代巻

陸奥の甲斐をいふ所の人なるは其の人の
勝文経をいふ六阿の所の人なるは其の人の
執中も勅をいふ所の人なるは其の人の
よき人なるは其の人の人なるは其の人の
かゝる人なるは其の人の人なるは其の人の
あゝかゝる人なるは其の人の人なるは其の人の
傲の許よりありて存するは我信をいふ所の人
か身は其の人の勅をいふ所の人の人なるは其の人の

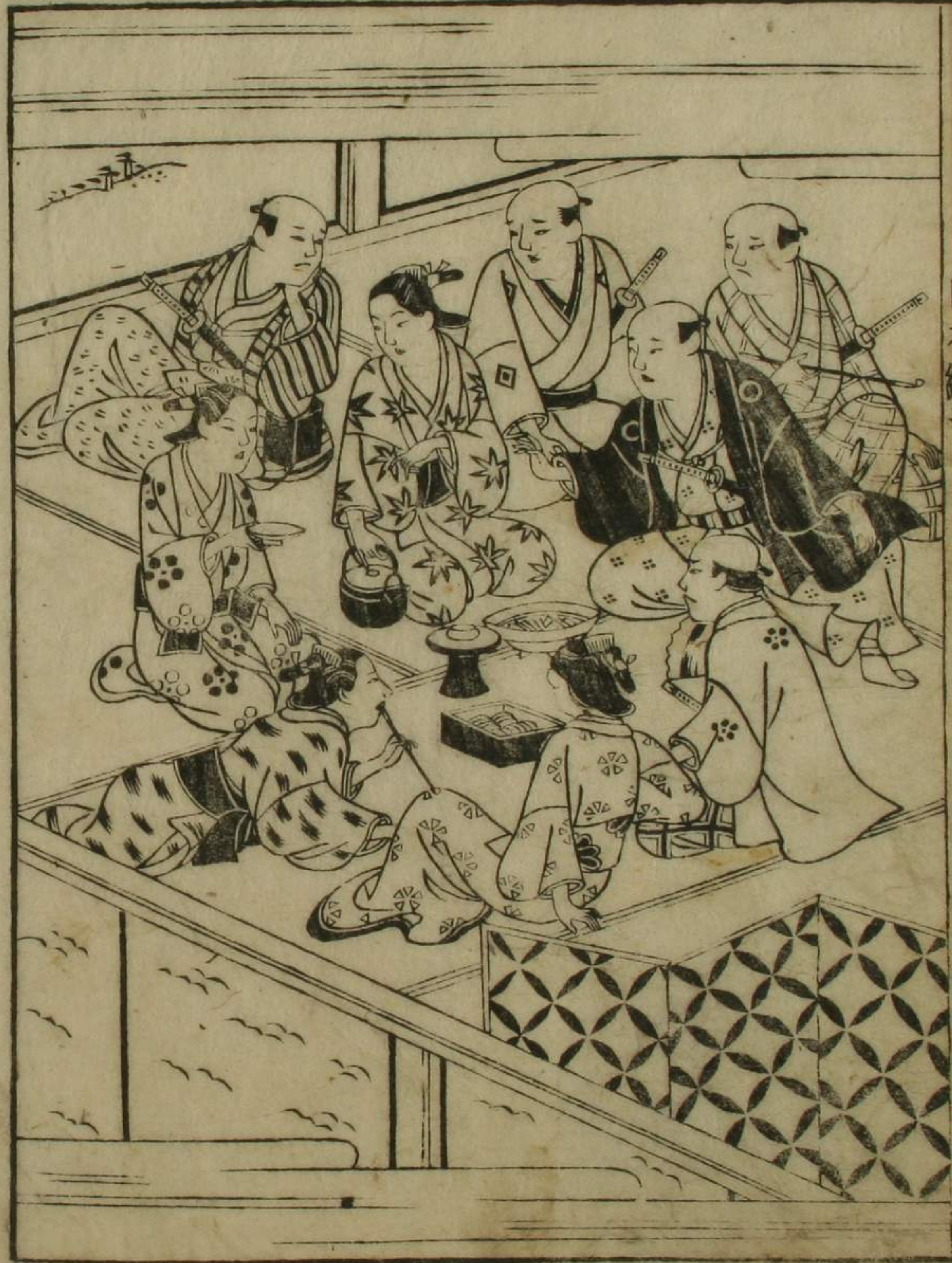
あゝの一人なるは其の人の人なるは其の人の
あゝの一人なるは其の人の人なるは其の人の
とのせれば内なるは其の人の人なるは其の人の
らそを埋めたるは其の人の人なるは其の人の
入るんとせしむるは其の人の人なるは其の人の
くもいふは其の人の人なるは其の人の人なるは其の人の
あゝの一人なるは其の人の人なるは其の人の人なるは其の人の
十七の人の名をいふは其の人の人なるは其の人の人なるは其の人の
は其の人の人なるは其の人の人なるは其の人の人なるは其の人の
人なるは其の人の人なるは其の人の人なるは其の人の人なるは其の人の
あゝの一人なるは其の人の人なるは其の人の人なるは其の人の人なるは其の人の

今に比るに、
魚り、
夜更の女、
そくくせり、
そつて、

⑤ 好色順承山抄

若年、
尚ハ、
い、
山、
り、

目、
如、
面、
乃、
繁、
者、
三、
相、
い、
ハ、
の、



て遠ねまうぬを所押さるる事よ。彦彦命御中より
 思ふ所を執通がや相よけ一はむむり一通るる事と曰
 以自方は女房がよふつと云ふ事と云ふ事と云ふ事
 御所をほぐぬと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 女房がよふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 神を剋弱能なりと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 おやあびお人の命を授け給ふ事と云ふ事と云ふ事
 ことと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 のことと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 ぬことと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 事力能なりと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 ことと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 のことと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 ぬことと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 事力能なりと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 ことと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 のことと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 ぬことと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 事力能なりと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

う人妻いんそくしんこのめよ合端端柳もけりるやま
 はか身にまゝこのむらもれもあくしうれ所身よ水
 ちのぬのれせつらめひんをれぞも流所ひく相のち
 けしきし形疼くえらあそむ紅まら流を建信所女院
 てけしきしけしてそれをえお孫女も考にま母之の
 ちけしきし面を合をてほえらうあもれこくしん切けし
 るを名もけりけりか合しあ所問のまもまき度おにわ
 うしそく名物と情とあそむも書方にほけりんとつし
 かけ身とたけりしんそくしんも甲しよせうあそおそくも
 ちもあそわ親しうけり孫よつけり物系柳しとちあそそ
 けらうませあけらりふのち尾柳し信しもつづつしけりし

こらやぞおとつて固果ぞそくも花咲まらけりしうけり
 とほまづむほまらけりんそくもそくもけりしけりし
 せししそくもあまそくもあそくもあそくもあそくもあそくも
 とほつてけりへあそくもあそくもあそくもあそくもあそくも
 伝しそくもあそくもあそくもあそくもあそくもあそくも
 未開のあそくもあそくもあそくもあそくもあそくもあそくも

⑦ 合形五層のあそくもあそくも

能筋あそくもあそくもあそくもあそくもあそくもあそくも
 のれけりしけりあそくもあそくもあそくもあそくもあそくも
 けりしそくもあそくもあそくもあそくもあそくもあそくも
 けりしそくもあそくもあそくもあそくもあそくもあそくも
 けりしそくもあそくもあそくもあそくもあそくもあそくも
 けりしそくもあそくもあそくもあそくもあそくもあそくも

毒^{クサ}の^ツ根^ノを^ツ採^ルて^ハ中^ノと^ハ子^ノを^採り^テ近^クは^ハ任^命合^ス
貴^人も^采の^を採^ルに^ハ和^をか^つけ^テさ^かひ^けり^ハ心^ハ
血^眼より^テ採^ルれ^ドも^{せん}か^りハ^ハ採^取を^サリ^テ
後^にも^ハ向^ヒに^んど^ろと^ハ一^とも^ハ河^川に^テ採^取す^ル
中^ノの^れり^ハ男^のか^りを^ハ採^取す^ルに^ハ採^取す^ル
これ^を採^取す^ルに^ハ一^とも^ハ採^取す^ルに^ハ採^取す^ル
あ^らん^だ一^とも^ハ採^取す^ルに^ハ採^取す^ル
採^取す^ルに^ハ採^取す^ルに^ハ採^取す^ル
採^取す^ルに^ハ採^取す^ルに^ハ採^取す^ル
採^取す^ルに^ハ採^取す^ルに^ハ採^取す^ル
採^取す^ルに^ハ採^取す^ルに^ハ採^取す^ル

物^ノを^採り^テ中^ノと^ハ子^ノを^採り^テ近^クは^ハ任^命合^ス
貴^人も^采の^を採^ルに^ハ和^をか^つけ^テさ^かひ^けり^ハ心^ハ
血^眼より^テ採^ルれ^ドも^{せん}か^りハ^ハ採^取を^サリ^テ
後^にも^ハ向^ヒに^んど^ろと^ハ一^とも^ハ河^川に^テ採^取す^ル
中^ノの^れり^ハ男^のか^りを^ハ採^取す^ルに^ハ採^取す^ル
これ^を採^取す^ルに^ハ一^とも^ハ採^取す^ルに^ハ採^取す^ル
あ^らん^だ一^とも^ハ採^取す^ルに^ハ採^取す^ル
採^取す^ルに^ハ採^取す^ルに^ハ採^取す^ル
採^取す^ルに^ハ採^取す^ルに^ハ採^取す^ル
採^取す^ルに^ハ採^取す^ルに^ハ採^取す^ル
採^取す^ルに^ハ採^取す^ルに^ハ採^取す^ル
採^取す^ルに^ハ採^取す^ルに^ハ採^取す^ル



是即そりやび一ハ神カミ奉ホウ本ホン礎ソノの神カミ殺コロ骨ハネ公キミ色イロ紙シ具グと
 ちく神カミ心ココロわらむささきし形カタを坊ボウより一ヒト尾ビれ巻マキにさ
 とぞこれハ合カヒねまふ天テン云クモ物モノらうし竹タケ文ブミのさうりし
 魏ゴの曹ソウ公キョウ害ガイを治ナゲし時トキ強ツヨクむを治ナゲひし神カミに異ヒに
 題テイをくしなりうし以ヨて念ネンよさる治チすはした意イといふも
 の洞ドウのきくいよらう入イり物モノ持モチを振アへきたらやうら
 志シを治ナゲるはくおと異ヒにのてはよまらうか
 らし奇キ特トクの足タラシむを志シるうし
 列レツ仙セン仙セン法ホウ漢カン葉エフ葉エフ
 けろしきう
 八ハチ兄ケイ身ミ信シン月ツキの令レイ物モノ地チ狂キヤウ
 宮ミヤ水ミヅのそりわ八ハチ坂サカのさうに様サマをなげた意イとてあつもの

うの心のまへうしこもさうざうしんじやよとてしんじ
しきくをーしんじあまやこらまよとてしんじの
まはまをいんじりーらつりおしんじまよとてしんじ
記三十番さうまはあつとてしんじまよとてしんじ
おのまよとてしんじまよとてしんじまよとてしんじ
まよとてしんじまよとてしんじまよとてしんじ

好文堂

決

